

VII. 委員会企画交流会

1. 保健師職能委員会実施
2. 助産師職能委員会実施
3. 看護の進路・進学支援委員会実施

1. 保健師職能委員会実施

1) 研修内容【ハイブリッド研修】

研修テーマ	目標	主な内容	講師
企業の健康づくり戦略からみる、健康なまちづくり戦略	講師の産業保健師としての実績を踏まえた企業における健康づくり戦略、思想、手法を紹介し、地域やその他領域での健康づくりでの戦略を参加者が考え、活かすことができる。	産業保健師としての実績を踏まえた企業における健康づくり戦略と健康な地域づくり戦略について	アサヒグループジャパン 住徳 松子

2) 受講状況 (人)

実施日	日数	定員	応募者数	決定者数	受講者数
11/12 (土)	1	60	13	13	11

3) アンケート結果 (%)

理解度 (N=9)	できる	やや できる	あまり できない	できない	未回答
	77.8	22.2	0.0	0.0	0.0

(%)

役立ち度 (N=9)	できる	やや できる	あまり できない	できない	未回答
	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0

4) まとめ

今回は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、ハイブリット形式での研修とした。

産業分野での研修を企画する機会は少なく、新型コロナウイルス感染症感染拡大等の影響により2年越しに開催することができた。参加者は少なかったことは課題であるが、学生、教員、行政保健師等産業分野の保健師以外の参加もあった。

講演はリモートで行われ、産業保健師としての実績を踏まえた企業における健康づくり戦略の具体的な活動を紹介し、戦略的に働きかけることの必要性について、具体的な内容であった。アンケートでも、今後に役に立つかについて「できる」「ややできる」と回答していたことから、参加者が今後の活動の場で活かせる内容であったと考える。また、講演後の意見交換では、統括保健師としての資質や保健師として目指すべき姿について等について、一人一人に丁寧に助言いただき、貴重な機会となったと考える。

2. 助産師職能委員会実施

1) 研修内容【オンライン研修】

研修テーマ	目標	主な内容	講師
産科管理者交流会	コロナ禍における看護管理について知識を深め、情報交換を通して危機管理体制の強化につなげる。	①講演会 「コロナ禍における看護管理について」 ②交流会	日本赤十字九州国際看護大学 倉岡有美子

2) 受講状況 (人)

実施日	日数	定員	応募者数	決定者数	受講者数
8/28 (日)	1	40	13	13	11

3) アンケート結果 (%)

満足度 (N=11)	非常に満足	満足	やや不満	不満	未回答
	54.5	45.5	0.0	0.0	0.0

(%)

役立ち度 (N=11)	できる	できない	未回答
	100.0	0.0	0.0

4) まとめ

産科管理者交流会は、管理実践能力の向上、情報交換・情報共有による周産期のネットワーク構築を目的として開催している。

講義では、コロナ禍での管理者の葛藤や悩みを学んだ。また、交流会では、コロナ禍での周産期医療の現状について意見交換を行い、各施設の情報を得ることができた。新人教育やコロナ禍での業務の困難さや、コロナ対策から生まれた連携やスタッフの変化などのメリットも共有することができ、今後に活かすことができる内容となった。受講者からも産科管理者交流会が「今後を活かせる」「今後も必要」という声があり、来年度も開催する予定である。

3. 看護の進路・進学支援委員会実施

1) 研修内容【オンライン研修】

研修テーマ	目標	主な内容	講師
看護学校と職場の情報交換会 マスク越しの世界で教育の工夫とその成果を語り合おう ～基礎教育と臨床（新人教育）をつなぐ～	看護師養成校と病院が情報を交換する場を設け、学生や新人看護師の現状理解を深め、教育的課題を共有し、新たな教育の在り方を探る。	グループワーク 新型コロナウイルス感染症が流行して3年目、実習経験が少ない学生を送り出す看護師養成校側とそれを受け入れる病院側の教育指導上の困難感や工夫、成功事例を共有し、基礎教育から臨床（新人教育）へつながる支援について語り合う	ファシリテーター 看護の進路・進学支援委員

2) 受講状況

(人)

	実施日	日数	定員	応募者数	決定者数	受講者数
看護学校と職場の情報交換会	8/24 (水)	0.5	80	60	60	52

3) アンケート結果

(%)

理解度 (N=50)	研修テーマ	できる	ややできる	あまりできない	できない	未回答
	看護学校と職場の情報交換会	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0

(%)

役立ち度 (N=50)	研修テーマ	役立つ	やや役立つ	あまり役立たない	役立たない	未回答
	看護学校と職場の情報交換会	44.0	54.0	2.0	0.0	0.0

4) まとめ

今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症禍での開催であったが、オンラインを活用して、実施することが出来た。

参加者は病院側が43名（33施設）、看護師養成校側が9名（7校）、合計52名であった。毎年、なかなか研修の周知が図れず、看護師養成校側の参加が少ないのが課題で、広報の仕方を検討していく必要がある。

参加者からは、看護師養成校と病院とお互いの意見交換の中で、「それぞれ思いが違い、現状の悩みに対して情報共有し、問題解決に取り組んでいければと思う」という前向きな意見や「卒業した学生たちの課題、それに対して臨床現場でどのように育て成長しているのか知ることができてよかった」など有意義な時間となったという感想が多く聞かれた。

アンケートの結果からも分かるように理解度、役立ち度いずれも高い評価であり、研修の目標は達成できたと考える。

今後も、看護学生や新人看護師を大切に育成できるように、また、お互いに協力し合いながら基礎教育と臨床をつなげていけるよう看護師養成校と病院の情報交換会を継続していきたい。